



「光増感剤」を用いた治療について説明する平川和貴教授＝21日、浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

光使ったがん治療 実用化へ情報交換

浜松

浜松科学技術研究振興会は21日、光照射でがんの診断と治療を同時に行う手法「フォトダイナミック・セラフ

スティクス」の実用化について考えるシンポジウムを浜松市中区の静岡大浜松キャンパスで開いた。関連研究に携わる県内外の大学教授ら13人が研究発表を通じて情報交換した。

同大学院工学領域の平川和貴教授は光を照射することで活性酸素を生成し、がん細胞を酸化、死滅させる「光増感剤」を用いた治療法を紹介した。がん細胞が取り込みやすい化合物を使った増感剤の効果を強調し、「手術せずにがん細胞という特定のターゲットを狙い撃ちできる。ぜひ治療法として確立させたい」と語った。

このほか、増感剤が正常な細胞に影響することを防ぐ方法や、

活性酸素を効率よく発生させる手法などについての発表があった。

星川

飛舟

戸川

責争

平成29年(2017年)1月24日(火曜日)